で未来を切り開こう

新春座談会

本紙は、新しい一九七七年度をどう闘うか、ということを主題に、新春座談会を開催しました。座談会は、あらゆる点から話し合いを進めましたが、非常に重要な課題を掘り起こし、組合員・主婦会員の前に提起しているように思います。保革逆転の条件もととのっていることが、十分確認できましたし、今年は大いに躍進したいものです。未来への道が開かれています。この座談会に参加した人たちを紹介します。松永元治さん（宮浦指導部、仕繰）、藤末成助さん（四山指導部長）、古賀茂さん（三川指導部、採炭）、西村政之さん（本所指導部、事務職）、丸田勇さん（港務指導部、技術）、平川弘子さん（三池主婦会事務局長）、猿渡静子さん（三池主婦会明治分会）のみなさんでした。なお司会役には、組合本部の山下開書記次長があたりました。

政治闘争とこの統一を
でも浅かった現状認識

山下　何といっても今日の情勢の特徴は、インフレに物価高。それとともに例のロッキド疑獄事件ですっかりさらけだされてしまった、政府・自民党―官僚―独占資本を固く結びつけている汚職構造。

当然ながら国民の自民党政治への批判が、先に行なわれました総選挙で保革伯仲が実現したことに示された、と思っています。

もともと革新勢力躍進の条件は到来していたのでしたが、折角自民党離れした国民の票は例の新自由クラブを伸ばす結果となりました。これは間違いなく、着ている衣を変えたばかりで中身は自民党と完全に同じで、そこに独占支配層の巧妙な意図がかくされているわけです。

民社党も伸びましたが、その伸びをもたらしたのはほかでもなく企業選挙で、独占の力を借りての結果となったのだと見ます。

七七春闘は、新しいこのような情勢のなかで闘うことになりますが、みなさんがまず考えられることは？

やっぱりかくせない負け

松永さん

西村　荒尾でも大牟田でも、社会党は負けです。熊本の二区でこそ得票数をふやしましたが、ほかでは得票数が減っている。日常活動の総括が選挙だとしますと、この際考えるべきです。

それに、組織労働者の決起も見られず、選挙闘争に加わってきていながら、「社会党の非武装中立政策がわからん」と、いいだす人もいたほどで、日常の政治教育の不十分さが感じられました。

反面、新労組員なかまの間にも表面、執行部のいう通りにふるまいながら、かげで「自分は必ず社会党に投票します」と、わざわざいってくる人がいたほどでした。

もちろん、新労組の委員や地区長などは、職組といっしょになって歩きまわってはいましたが。

古賀　大牟田の場合、選挙闘争の取り組み方があまかったですね。労働運動と政治闘争との統一を日常闘争を、ただそれだけのものだとしてかたずけていはしなかったか。それらの一つひとつが、みんな政治とどう関係しているか。考え直すべきではないか、と思います。

反省させられたためらい

松永　それにしても、ロッキード疑獄事件で一番黒い田中や二階堂といった連中が、ゆうゆう当選。日本人とはいったい何なのか、つくづく考えさせられますね。

藤末　職場や地域における組織的しめつけで、民社党への投票を強要した。

平川　反応は敏感だけれどもそれが選挙となりますと、別ものに変ってしまう弱さ。

私が病院にいったときのことですけど、七十歳くらいのおばあちゃんが私のところへやってきまして、「もうきめとりなはるでしょう。まだきめとりなはらんなら、ぜひお願いします。公明党からでもなんでもよろしくお願いします」と、何のためらいもなく言葉を返すことのできない弱さ。反省させられます。

選挙に結びつかぬ反合闘争

松永　選挙は選挙。反合理化闘争は反合理化闘争と、認識がバラバラだった。それも率直にいって、社会党への不信があったからのことです。自民党政治がつぶれたら、そのあと社会党が政治の中心に座らなければならないことを知っているだけに、不信がある訳ですよ。政治、平和、反合闘争の問題はピタリ一つに結ばれているのに、それがそのためにつかれていない。

卵の値段はいくら？
出し前に痛いアタマ

高温のなかで1日じゆう仕かされ、くたくたに疲れ果てながら昇坑する毎日。

山下　いよいよ七七国民春闘の時期がやってきますが、これについてはいかがですか。

西村　頭にきたといえば、七六春闘で賃上げを勝ちとったものの、さて展開となると前年度からちっともふえとらん。

平川　賃上げ分をはるかに上回る。それにもってきてこんどは、工場掛と保線掛の合併合理化でしょうが。

松永　頭にきたといえば、生かして使うようにしています。

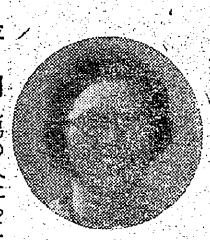
よそのおうちでは、よく、新しいものや、ひと山いくら、といったものを買いこんでは、冷蔵庫のなかでダメにしてしまう、といったものがないように、と心がけているんですよ。

それに、できる限り古いものを買いものといえばほとんど男ばかりだったが。

平川　それに、子どもたちからは、お小使いの値上げ攻勢がくる。（笑い）

松永　三池闘争後は、事実上、男の人たちに、買いものにいってもらうことですね。（笑い）

平川　それに、子どもたちからは、お小使いの値上げ攻勢がくる。（笑い）


平川さん

頭にきたインチキ月給制

丸田　港務所で問題になっているのが、組合の反対を押し切れわれ男は卵の値段も知らんもんな。（笑い）

強引な生産重点主義
出炭ふえ、ケガは減らず

山下　職場の状態はいかがですか。

松永　宮浦鉱ではいま問題になっているのが、例の有明炭鉱への配転ですね。それに会社の生産第一主義が、どうしても生産に直接つながる部門に、作業員を重点的に投入するもんなんでしょう。出炭がふえれば、それに伴って逆に運搬はふえ、材料がふえる。それにともなって、人間も当然ふやすべきなのに、それは逆に減らす。そこで折角、私たちが団結で勝ちとった休憩時間の一時間のうちから、三十分だけ買い上げたり、時差出勤をおしつけたりしてくるわけです。

当面その対象となるのは、いうまでもなく新労組員なかまですが、しだいにわれわれ三池労組員もまきこまれていかざるを得なくなっていく。

丸田　港務所では、いんちき月給制のおしつけで、一万四千円から逆に値下げになった者さえでてきました。

西村さん

西村　月給制といえば、何だか職員になった感じですがね。

藤末さん

藤末　間接部門で、ケガがちっともへらんとですよ。出炭はふやさんなん。人間は減らさんなんでしょう。出炭がふえれば、それに伴って逆に運搬はふえ、材料がふえる。それにともなって、人間も当然ふやすべきなのに、それは逆に減らす。そこで折角、私たちが団結で勝ちとった休憩時間の一時間のうちから、三十分だけ買い上げたり、時差出勤をおしつけたりしてくるわけです。

当面その対象となるのは、いうまでもなく新労組員なかまですが、しだいにわれわれ三池労組員もまきこまれていかざるを得なくなっていく。

しのくらべ知恵

貸金の取り立てや、交通事故、家屋の明け渡しなどは普通話し合いで解決するものですが、話し合いでまとまらないときは民事調停を申し立てるのです。

調停は、原則として相手方の住所地を管轄する簡易裁判所に申し立てます（家屋明け渡しは建物所在地）。調停は裁判と違い、調停委員がなかにはいって当事者が話し合って、紛争を解決するもので、申し立ての手続きも簡単なうえ費用も安く、とくに弁護士にたのまなくても、しろうとでも気安く利用することができます。

民事調停の申立てについて

普通の裁判ではなかなか解決がむづかしいのを互いに譲歩して、条件を定めることができます。

調停で定まったことは調停調書に書かれますが、これは確定判決と同じ効力があり、相手がそれに違反すれば強制執行することもできます。

調停で話し合いがはじまっても、必ず話しがまとまるとは限りません。調停が不成立の場合は、二週間以内に訴状に追加の印紙を貼って、正式の裁判に切りかえることができます。